

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2022年

11月

207号



- ◇ 良田に種をまく
- ◇ 力と願いに応じた施し
- ◇ お金の正しい使い方

信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きっとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

大観音祭り盛大に挙行！

十月二十三日（日）雲ひとつない爽やかな秋晴れの下、総本山真生寺に於いて大観音祭りが盛大に行われた。本年もコロナ禍を考慮し、岐阜地区の代表参拝と地方教会はライブ配信によるリモート参拝のハイブリット開催となった。



大阪教会、リモート参拝



婦人部ご詠歌隊



お祭り広場で楽しいお弁当



子供奉獻隊



中央、草刈機を手にされる会長先生



下刈り作業をされる会長先生

地球環境を守る！

WCRP 宗教協力 SDGs 活動

九月三十日（金） 国連が提唱する
2030年までに持続可能でよりよい世
界を目指す国際目標SDGs活動の一環
として、WCRP 気候危機機タスクフォ
ースが管理する「いのちの森」（埼玉県所
沢市トトロの森隣地）の下刈り奉仕に同
タスクフォース責任者として会長先生が
参加され、環境保全活動にボランティア
の参加者と共に勤労の汗を流された。



みんなの聖地・真生楽園一斉勤労奉仕 家族みんなで参加しよう！！

11月20日（日）

AM 9：00～ 奉仕活動

PM 12：30～ 親睦バーベキュー
ランチタイム

PM 1：30～ 後片付け

PM 2：00 解散



開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

たなか ひでひと

年頃の娘を持つカニの母親が、横ばいに歩く娘の姿を見て心配して言いました。「あなた、気をつけて歩かないと駄目よ。横にばかり這っはているじゃないですか」娘が反発して言いました。「お母さん、これでも私は一生懸命まっすぐ歩いているのよ。そんなに文句を言うのなら、一度お母さんが歩いて見本を見せてちょうだい！」母ガニは自信満々に歩いて見せました。娘のカニは大笑いして「偉そうに言ってるけど、お母さんだつて横に這っているじゃないの」と言われ、親ガニが初めてわが姿に気が付いた、という笑い話があります。

親の道は子が通る。子供は親の鏡なのです。親が信仰に沿って正しい道をしつかり歩むことが大切です。**親が機関車、子は客車**です。機関車が目的の駅に到着すれば、客車も必ず到着するのです。

(1979年、真実に生きるひかり12号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇良田に種をまく

人に迷惑めいわくもかけないが、人のために良いこともしない。これでは先細りのじり貧の人生となつてしまいます。人生は良い種も悪い種も、知つて蒔いた種も知らずに手からこぼれた種も生えてくるのが真理です。そして、同じ種でも滋味じみ豊かな良田に蒔いた種は良く育ち稔りも大きいのです。良田とは仏事のこと、親や恩人、社会

貢献のことです。

徳積みの種たまひまきにも順番があります。經典に「篤あつく三宝（仏・法・僧）を敬あやまい、普あまねく衆生しゆじやうに施ほどこし」とあります。まず仏事のこと、法の弘まること、法を伝える人に感謝の布施をすることです。その次に普く衆生、つまり親や家族、広

く社会のために施すのです。「人生は徳が本なり、財は末なり。徳積めば物は自由になるものを徳も積まずに困る世の人」と教えられています。

◇力と願いに応じた施し

日本の税金は累進課税るいしんかぜいです。収入の多い力のある人がたくさん税金を払い、収入の少ない力のない人を支えるという仕組みになっています。

イスラム教では「ザカート」と言つて、お金持ちが貧しい人に施すのは当たり前で、お礼は言わないそうです。それは神様から富を託されたお金持ちの当然の義務だからだそうです。日本でも昔は財産家のことを「お大尽だいじん」といいました。つまり、財力で大きな施しをし、世のため人のために尽くす人のことです。あるおばあさんの相談です。

「先日、孫が下宿先から帰った時、お腹の周りに湿疹ができ、かゆがっていました。ちようど久しぶりに兄弟で食事に行くというので、あなたが食事代を出して施しの徳を積むときつと治るよと言いましたら『おばあさん、それ本当？ だったら僕が今日はご馳走するよ』と素直に聞いてくれました」

かつて開祖さまから、湿疹しっしんやかゆい病気の時は、施しをすると治ると教えて

頂きましたから、そのように伝えましたが良かったでしょうか」

「おばあさんの助言は正しいと思いますよ。孫さんは一流企業に勤め給料も高く、毎月例月供養もされ実家にも生活費の応援をされていますし、真面目で無駄遣いをする青年ではないけれど、きっと貯まり過ぎたんでしょうね。力に応じてもつと施しをすると運命が良くなっていけますよ」

「先生、実は気になることがあります。今度、嫁が車を買って替えるので、私も孫たちもお金を出して協力したのですが、私が思うところの上の孫は、もつと出した方がいいと思うのですが、どうでしょう」

「どのくらい出されたのですか？」

「はい、十万円です。孫は将来結婚して家を建てるために、しっかりと貯金していると思いますが、親孝行のつもりでもつと出すといいと思うのですが……」

「そうですね。十万円も決して少なくないですが、孫さんはもう適齢期も過ぎ、いくら貯金があっても結婚が決まらなければ、貯金も役には立ちませぬ。思い切って母親に喜んでもらう徳を積むと結婚運が開けるでしょうね。おばあさんはどのくらい出すといいと思いますか」

おばあさんは五本の指を広げて、

「はい、私は五十万円ぐらいは出すといいと思います。結婚すると付き合いが増え、何かと入用が多くなり、そんなにたくさん出来なくなりますから、今の独身のうちがチャンスだと思います」

さすが長年信仰で鍛えられ、どんなに苦しい時でも法座を開き続け、法の施しと徳積みによつて病気や経済苦など幾多の問題を乗り越えて来られた方は、徳を積むことに対する絶対の自信があり、年を取られても徳の積み方のスケールが違います。

「おばあさん、私もそれがいいと思います。あなたには長年信仰でつちか培われた徳分と自らが徳を積んできた体験がありますから、自信をもって孫さんに伝えあげて下さい。きっと理解されると思います。親は良田であり、一回だけでなく何度でも機会あるたびに、良い種をまいておくと時期がくれば何倍もの徳の収穫がありますよ」と申し上げました。

反対に富士の山ほどの大きな罪を作り、先祖からの不徳の因縁の大きな落とし穴があったら、スプーンに一杯や二杯徳を積んですぐに解決するものではあ

りません。ダンブカーで何台分も運ばなければ罪の大穴は決して埋まりません。またせっかく埋めた罪の穴も油断して放置しておく、気付いた時にはまた穴が開いてくるものです。

高速道路でも繰り返しアスファルトの補修工事をしているから、安心して走れるように、人生も同様、生活が豊かになり、学歴もでき、新築に住み、新車に乗れる生活は、人生の高速道路です。しかし、高速道路の事故は事故にながります。幸せというスピードが早ければ早いほど、人生街道の点検補修を続けていく必要があるのです。

人生の点検補修の基準になるのが仏法です。常に自分を磨き、仏さまのものの見方「今の考え方や行動が、徳が積めているかどうか。自らも喜び、相手にも喜んでもらえるかどうか」が不幸の分岐点になるのです。

◇お金の正しい使い方

お金のことを「お足」と言います。足の役目は動くことです。お金は貯め込んで動きを止めてしまったら萎なえて力を失います。どんなきれいな水でも流れが止まったら腐り始めるのと同じです。お金は自分のためではなく、仏事

や神事への布施・寄進、ご先祖への追善供養、親や家族、人や世の中のために使ってこそ活力が保たれるのです。つまりお金は善いことに動かしながら、貯めていくことが大切です。

おばあさんの話を聞いていたお嫁さんは、子供に余分な負担をかけたくないという思いからか、何となく浮かない顔をして見えましたので申し上げました。「お母さん、心配されなくてもいいですよ。一人前になった子供が親のためや家のために一肌脱いで尽くしてくれることを遠慮してはいけません。『ああ有り難い。ありがとう』と言って喜んで受けることが、子供の積善の徳となり、幸せの種まきになるのです」

《孝は百行の本》と言います。時には子供に徳を積んでもらう受け皿になることも、子供の将来の幸せのための親の役目だと自信を持ちましょう。

皆さん、徳積みの大切さ有り難さを信じましょう。布施は仏の境界に近づく第一歩です。特に法の施しは、財施の百倍千倍、百千万億倍の功德があります。このひかりの本は、自分だけが読むのではなく、家族や友人など縁ある人へ手渡し、法の施しを実践して、計り知れない功德を頂いて下さい。

釈尊物語

(27)

◆◆極楽浄土はどこにあるのか◆◆

ある時、目連尊者が釈尊に尋ねました。

「悟りの世界を『浄土』といわれますが、

浄土とはどのような世界なのですか？」

「悟りを開いた仏陀ぶつだの住む世界を浄土

と言い、阿弥陀仏あみだぶつの住む国土を『西方極

楽浄土』と言うのである」

「阿弥陀経にはその極楽の様子が細かく描かれ、極楽の住人には何の苦しみもなく、いろいろな楽しみだけが有ると説かれています。大地は黄金と宝石で覆われ、天上には美しい音楽が奏かなでられ、池の蓮の花は色鮮やかな光を放ち、空から

は曼荼羅まんだらの花が降り注ぎ、鳥たちは優雅にさえずり、人々の寿命は限りなく長く、病も悩み苦しみもなく、一切の罪過も無く、みな阿羅漢あらかん（修行者の最上位）の悟りを得ています。つまり、極楽は文字通り『きわめて楽しい』ということになりますが、もし一切の欲望の無い世界だとしたら、逆に少しも楽しくはないのではありませんか。」

「確かに極楽は人間の欲望を満足させ、喜ばせるようなものばかりだが、極楽という世界は、悟りを開いた仏たちに対してではなく、まだ悟りを開いていない迷える者たちに極楽という素晴らしい世界おつじょうに往生したいという願望を起こさせ精進させるための『方便』なのである。

つまり、どんな場所でも煩惱から離れた世界は、そこに存在するあらゆる物すべてが黄金になるといふことだ。ここに極樂のほんとうの意味があるのだ」

「わかりました。どんな場所でもどんな物でも、煩惱を離れば、その場所が極樂浄土であると同時に存在するあらゆる物が金銀財宝になるのですね」

「その通り、西方極樂浄土の本当の意味は、一切の煩惱から離れた場所こそが極樂であり、そこに存在するあらゆる物が金銀財宝の存在になるといふことだ」

死後の極樂往生も大切ですが、極樂浄土は決して死後の世界のことではありません。大事なことは生きている今いる自

分の場所を極樂浄土に変えることです。

釈尊は一切の煩惱から離れた世界が即ち極樂浄土だと説かれています。浄土はどこにでもあるのです。薬師如来の東方淨瑠璃世界、阿閼如来の東方善世界、弥勒菩薩の兜率天、観音菩薩の普陀落山など、すべての欲望と煩惱から離れたとくに、即今その場所が極樂浄土となり、あなたの持つているものはすべて『黄金』に輝いて見えるようになります。

それを信じて修行をし、少しでも毎日、今いる場所が極樂浄土に近付ける生き方をしたいものです。極樂浄土は実際に存在するのですから。

幸せは西にもあらず東にも、来た（北）道探せ、南（みな身）にぞある

今月の運勢（12月）

（12月7日～2023年1月4日）

一 白水星

行動的に動く時ではない。心を落ち着けて一年を振り返り、来年に向かつて英気を養い、周囲の状況をよく見て行動計画をじっくり練り直そう。自分も周囲から見られていることを忘れないように。

二 黒土星

主と従、夫と妻、目上と目下、年配者と若者が互いに交われれば天下泰平となり、望み事はすべて叶う。内心は堅固に外面は柔らかく。自分の長所や美点を伸ばし、スピード感を保持って行動すること。

三 碧木星

周囲の人と楽しく過ごす時であり、戦いや勝負は避けること。最初

に無理をすると最後までで苦勞が伴う。準備を整え、物事の順番を守る。無理に進めば凶、何の利益もない。

四 緑木星

水が地形に沿って流れるように周囲の状況に合わせてながら進むこと。急進ではなく水が浸み込むようにゆっくり順を追って進み、万端抜かりなく細心の注意を払えば吉となる。

五 黄土星

輝かしい光を放つ立場にいる。明るく陽気に行動し、誰にでも公平

に接するとよい。アイデアも冴え、周囲から

も注目されるが、怒りや争いには要注意。大事になる恐れがある。

六 白金星

運氣の谷間にいるので、何事も争いごとは避けること。自分だけが正しいと思わず、中庸と公平が大切。問題は話の分かる公平な立場の人に任すと良い。冒険する時ではない。

七 赤金星

心から先祖供養をし、喜びの生活をすれば人と物が集まってくる。今は大きな犠牲を払ってでも積極的に打って出れば利がある。但し、

予期せぬ突発事故に備えを怠らないように。

八 白土星

人を養い育てる力が充実し、話す言葉にも力があり、人を見る目も充実している。上昇期を迎え人生観が大切な時である。喜びと感謝の心で収入を得ていれば吉となる。

九 紫火星

高運期を迎え、何事も好調に進む。古いものと新しいものをじっくり融合させ、トラブルを調整する力も備えている。部下や若者に手間と資本をかけて、時代に即応する人材を育てるチャンス。

しあわせ眼鏡

見て見ないふりをしない
小さな親切が
次の親切を生むような
優しい世の中にしよう！
そのために
ひとり一人が
善行に勇気を出そう！！

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。